

9月分.

## 創業社長

創業社長に多い特徴は(1)食事をするのが早い。(2)せっかち(3)頭がよい。(4)思い込みが強い。(5)勉強好き。(6)痛風等です。

私が言っているのは、成功者と呼ばれる経営者のことではなく、普通の中小企業の社長のことです。私は多くの経営者と食事を共にしていますが、店に入る前に何を食べるか決めていきます。メニュー表を見て何にしようかと迷っている人はほとんどいません。ましてや他人の決めたメニューで「同じものを下さい」という人は少ないです。食事も話しながざですが早い、よくかんで食べているかざです。ましてや家庭で奥様が出してくれた料理を「まづい」という人はいるのではありませんかと思えます。「旨い」とはおせじで言います。家庭の平和が仕事に集中できる「ツラ」とゆわがっているかざです。これは食事をしながら何を考えているのかという、仕事のことでは頭の中はいつも「はい」です。寝てもおぼろでも仕事のことです。妻が話しかけても返事はしますが、心は他のところにおぼろ。よく妻に叱られます。また奥様も共に働いていますが、食事の会話は、子供を含めて、商売の話、社員のこと、会社の出来事が主です。サラリーマン家庭では、子供の学校、友達、先生のことを中心とした会話の中心で(ようが、)こどもも妻に子供に関心が無いと叱られます。次の特徴として、せっかちで多くの早い、社長は、最終判断をしなければならぬ立場として判断する数も多いのでよく考えてお答えします。とほりかざのです。せっかちでないと、すぐ実行する実行力が無いと、生き残っていきません。だから失敗も多いのです。社員は「また社長が何か始めた、また失敗した、反対したのにな」とよく言います。しかし、何もしないで評論することは誰にでも出来ます。世界中の不幸な人々のことを心配することは誰にでも出来ます。しかし、自分の人生をかけてたった一人の社員の生活を中絶するのほうがか尊く価値があります。失敗の中か「学び、成功するのです。そして現在の会社があるのです。

創業経営者は、会社がかかぬいのです。自分の子供を育てる以上の愛情を持って会社を育て成長させてきました。この内には、倒産の危機を何度か経験してきました。会社はつぶしてはいいかと心の底かざ感じとっています。ですが、危機感のない社員の言動を見てみるとはかゆく心配で、小言も言います。反発を覚悟で叱ります。しかし、社員は社長の後ろ姿を見ていますが、文句を言っているかざ、ついていきます。社長個人の人柄に社員はついていきます。社長は人格を高めることが必要です。こういう社長もいずれば、経営を次の人に引き継ぎます。後継の心構えとして「譲られた者が、譲った者を無条件に長く立てあげなければ、引退の花道を飾れない。晩年に花を咲かせてあげるのが、譲られた者の責務ではないでしょうか。引退を決めたものが捨身か」ということを肝に銘じなければ後継はできません。自分の人生のすべてを賭けた会社を護るのです。そこがかかづいていなければだめです。」(牟田学著「社長業」より)

この言葉が重いです。